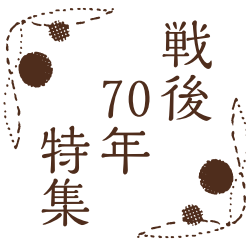


歯科医「対馬丸」の悲劇

高良さんが「足を止めて見てほしい場所」と語る犠牲者の写真の展示



戦時中、沖縄から本土へ向かう学童疎開船が米潜水艦の魚雷攻撃を受け、鹿児島県沖で沈没した。学童780人を含む約1500人が犠牲となった「対馬丸事件」だ。8月22日に事件から71年を迎える。那覇市内にある資料館「対馬丸記念館」で、生存者の一人で歯科医師の高良政勝さんに話を聞いた。

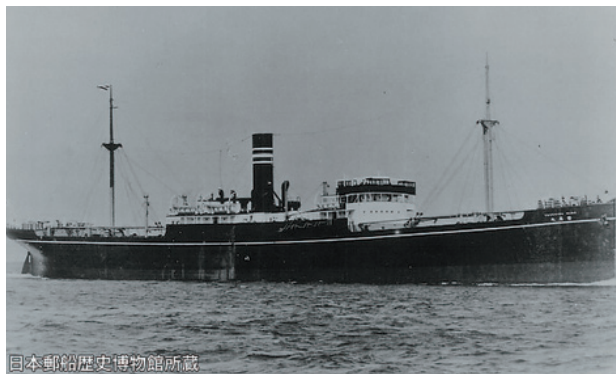
1944年8月21日、当時4歳だった高良さんは全長136.6mの対馬丸を見上げ、その大きさに圧倒されていた。1カ月前にサイパン島が陥落し、「次は沖縄だ」と言われるようになると、政府から「老人や婦女子を県外へ疎開させよ」との命令が出された。子どもの将来を案じた高良さんの両親は家業の牛乳屋をたたみ、一家で鹿児島にいる長男の元に疎開することを決意する。

家族9人が犠牲

両親と9人の兄弟と共に乗船した高良さん。人ではないの船内を走り回って遊んでいたというが、「当時のことは断片的にしか覚えていない」と話す。次の記憶は、海に投げ出された後だった。

8月22日午後10時、対馬丸は海の底に沈んだ。「気づいた時には見渡す限りの海。周りに誰もいなくて、いかに何かに必死でつかまっていた。波をかぶり、目や鼻が痛くて顔を拭いたくても手が離せない。そんな状況だった」

漂流して3日後、高良さんは奇跡的に救助される。当時17歳の姉も生き残ったが、両親を含む家族9人が亡くなった。遺体も見つからなかった。「一人きりで漂流していたと思っていたが、聞くところによると、どうやら途中で親父が一緒に



対馬丸 長さ135.64m、幅17.68m、深さ10.36m。建造から30年経った老朽貨物船で、船倉に2段の棚をつくり、疎開者を乗せた。船内は人で埋まり、蒸し暑く、とても眠れるような状態ではなかった (写真提供：日本郵船)

事件にかん口令

対馬丸には約1800

当時は太平洋戦争まっただ中。かん口令が敷かれ、事件は徹底的に隠された。

撃沈された学童疎開船 隠された子どもの犠牲

対馬丸記念会理事長・歯科医師 高良 政勝さん (75)



家族写真を手に当時の様子を話す高良さん。末の妹は写真を撮らないまま対馬丸に乗り、0歳で亡くなった

たから・まさかつ 1940年生まれ。66年に大阪大学歯学部卒業、70年に同大学院歯学研究科修了。91～94年に沖縄県歯科医師会副会長を務める。

母に事件を伝えようと、懇意にしていた船員に手紙を託し、何とか届けたものだ。住所も名前もない。手紙の最後には、『これまでのことは一行たりとも隣近所の者に知らせてはなりません。極秘です』と書かれている。罪の無い人々の命が失われただけでなく、身内に知らせることさえも許されなかった。そんな理不尽なことがまかり通るのが戦争だ

戦争しない国を

人々が乗っていた。乗船名簿がなく正確な人数は分かっていないが、学童は約800人。そのほとんどが犠牲になった。

97年に対馬丸が海底で発見されたことを機に、遺族らが事件を後世に伝えようと「対馬丸記念館」を2004年に開設。現在、理事長を務めている。

「記念館を訪れた際には、足を止めて見てほしい場所がある」と高良さん。事件で亡くなった人の写真を壁一面に展示したエリアだ。子どもからお年寄りまで一人ひとりの写真が飾られている。亡くなった

「これを見てほしい」と高良さんは一通の手紙を取り出した。「祖父母様」と書かれた手紙の冒頭には、赤字で「秘」の文字。

「兄が沖縄にいる祖父に、足をとめてほしい場所がある」と高良さん。事件で亡くなった人の写真を壁一面に展示したエリアだ。子どもからお年寄りまで一人ひとりの写真が飾られている。亡くなった

対馬丸撃沈による犠牲者【氏名判別者数】

疎開者（学童）	...	780名
（訓導・世話人）	...	30名
（一般疎開）	...	630名
船員	...	24名
船舶砲兵隊	...	21名
合計	...	1,485名

対馬丸の乗船者

疎開者（学童集団疎開、一般疎開）	1,661名
船員	86名
船舶砲兵隊員	41名
合計	1,788名

※2014年8月22日までに名前が判明した数。今後も遺族からの申告があれば増えていく。

語り継ぐことの重みを感じながら、平和な世界を願っている。

「子どもたちは船に乗る時、『汽車に乗ってみたい』『冬になれば雪が見られる』と心を躍らせていた。その夢や希望が一瞬にして奪われた。この戦争の事実を受け止めてほしい」

戦後70年が経ち、秘密を思い出している

記念館の運営は12年目を迎える。「対馬丸の事実を通して戦争の実相を多くの人に知ってほしい。子どもたち一人ひとりが夢を抱けるよう、戦争しない国を貫かなければ」



「対馬丸」テーマに講談

8月21日(金) 天満天神繁昌亭

対馬丸の悲劇をテーマにした新作講談「ミチコ先生とマーメイドと対馬丸」が21日、大阪市北区の天満天神繁昌亭で開かれる。演者は旭堂南照さん。詳細は次の通り。

「落語と講談～新作と古典」

日時：8月21日(金) 午後6時半開演
会場：天満天神繁昌亭
演者：林家市楼「市民税」「くっしゅみ講釈」
旭堂南照「ミチコ先生とマーメイドと対馬丸」「黒雲のお辰夢の浮橋」

料金：前売2000円、当日2500円
※問い合わせは三栄企画(TEL06-6352-4874)まで